

ケイパビリティからスローライフを再定義する —雲南・麗江古城における客棧の外来経営者に着目して—

艾 婷婷 (資源環境経済学講座・環境経済学分野)

【目的】「夢の楽園」として知られる麗江古城は、スローライフをテーマにした観光で有名である。スローライフとは人生をゆったりと楽しもうという考え方であるという基本的立場をとる文献が多いが、これは人々の表面的な行動から捉えた理解にすぎないと考えられる。本研究では、人の生き方の幅（人の置かれた環境の前提：ケイパビリティ）が人生を豊かにするための前提であると考え、スローライフを、環境と自己決定に着目して再定義する。本研究はケイパビリティ（生き方の幅）の視点から、中国の観光地雲南・麗江古城における客棧を経営する外来経営者が観光を通じたスローライフを提供する役割を持っている可能性を明らかにすることでスロー社会のあり方について一つの提案を行う。

【方法】外来経営者の場所愛着とスローライフを推進する意識（以下は「意識」と称する）との間にはどのような関係があるか、それを推進する過程で、外来経営者が観光客の自己決定を尊重し、彼らのケイパビリティを拡大していく宿泊環境を作るかどうかに関する、スローライフを推進する外来経営者の意識・行動モデルを作成した。麗江古城で客棧を営んでいる筆者の知人に依頼し、客棧を営んでいる外来経営者を対象にスノーボールサンプリングの方法でアンケートを実施した。それに加えて、SNSで麗江古城での客棧の経営者に連絡し、アンケート回答への協力を依頼した。

【分析結果】「場所愛着」と「意識」の相関係数は0.50であり、有意な中程度の相関がある。「場所愛着」と「スローライフを推進する取り組み」（以下は「取り組み」と称する）の相関係数は0.36であり、有意な弱い相関がある。「意識」と「取り組みを独立変数に、自己決定を従属変数に設定して回帰分析を行ったところ、「意識」と「取り組み」は「自己決定」に顕著な正の関係があり、「意識」と「取り組み」は自己決定の46.5%を説明できる。「意識」と「取り組み」は「自己決定」を規定する重要な要因である。出身地で場所愛着に差があるかどうかに関し、平均値の差についてt検定を行ったところ有意差が見られた。この結果から、外来経営者は地元経営者よりも麗江古城に対する場所愛着が高いと解釈できる。出身地で「意識」に差があるかどうかについてt検定を行ったところ、平均値に有意差が見られた。この結果から、外来経営者は地元経営者よりも「意識」が高いと解釈できる。出身地で「取り組み」に差があるかどうかについてt検定を行ったところ、平均値に有意差が見られた。この結果から、外来経営者は地元経営者よりも「取り組み」を行う傾向があると解釈できる。出身地別に、客棧で観光客の「自己決定」を尊重することに差があるかどうかに関し、平均値の差についてt検定を行ったところ有意差が見られた。この結果から、外来経営者は地元経営者よりも観光客の「自己決定」を尊重する傾向があると解釈できる。

【結論】調査結果を分析した結果、外来経営者の場所愛着がスローライフを推進する意識と関係しており、それを推進する過程で外来経営者は観光客の自己決定を尊重し、彼らのケイパビリティを拡大していく可能性があることが明らかになった。以上より、スロー社会をケイパビリティと自己決定から評価し、その上でスロー社会のあり方を検討することの重要性を示した。